

ノーモア・ミナマタを語り継ぎ、住みよいまちづくりを！

NPOみなまた



No.37 (2010年11月)



水俣の「エコパーク水俣ナーサリー」の園芸療法に定期的に行っています。

入居者のみなさんと一緒に職員も楽しく参加しています。

今回は「寄せ植え」です。やっぱり、基本は土作り。

ナーサリーの職員の方に教えていただきながら、素敵な寄せ植え鉢が出来上がります。

(グループホーム キトさん家)



発行：NPOみなまた 発行責任者：橋口三郎 ☎867-0045 水俣市桜井町2-2-20

☎0966-62-9822 fax0966-62-1154 Eメール：npo@minamata.org

題字：江口 睦美

(カット：くさのあき)

これからのみなまたのまちづくり

水俣市副市長 森 近

これからのみなまたづくりをどのようにしていくか、常に考え悩んでいます。

◇水俣の現状…

水俣の現状を考えたとき、これまでのまちづくり、地域振興の考え方を転換しなければならない 時期に来ていると思います。

人口減少が進み、10年前平成12年は31,379人であったのが、今年8月末現在の人口は27,671人となり、3,705人減少したことになります。

高齢化率も32%と天草市、上天草市に次いで3番目に高い状況にあります。

市民の声としては、地域経済の活性化、働く場所（雇用）の確保を求める意見が多く、地域の活性化、雇用の確保が行政の重要課題となっています。

このような中、水俣市では平成22年度から29年度を計画期間とする第5次水俣市総合計画を策定しました。

◇まちづくりの基本理念として…

水俣病の教訓を活かして、二度と水俣病のような公害が発生しないよう警鐘をならすとともに、これまでの体験や地域環境を再生してきた様々なノウハウを発信し、地球規模で進む温暖化防止に積極的に取り組み、環境と経済が一体となって発展する持続可能な社会の構築を目指し、環境モデル都市づくりを推進します。

さらに、環境をまちづくりの中心に据え、生命の尊さ、もったいないの気持ち、地域に対する愛着と誇りを大切にするとともに、地域の特性を踏まえた産業振興を図ることにより「真の豊かさ」を感じることができ、多くの人が交流するまちを、市民協働で築いていきます。」と定め、将来の都市像として「人が行きかい、ぬくもりと活力ある環境モデル都市みなまた」を掲げています。

水俣市民は、水俣病問題から、命の大切さ、環境破壊の怖さ、地域社会の崩壊と再構築の難しさなど多くのことを、体験し学びました。

そして、水俣市民は、人の命を大切にし、環境を汚さない環境破壊に加担しないというまちづくりを進めるため環境モデル都市づくり宣言をし、環境に配慮したまちづくりを行ってきました。

このことを基本としてこれからもまちづくりを進めていかなければなりません。



◇地域の特性を活かした個性あるまちづくり…

「環境と経済の調和、持続可能な社会の構築」、「環境で飯がくえるまち」言葉で言うのはたやすいことですけれども、それを現実に市民が実感できるとなると大変難しい問題です。

高度経済成長時代のように、経済の発展や人口増加をまちづくりの目標に据えても、それを実現できる時代ではないと思います。

日本全体の人口が減少に転じ、経済の発展も企業誘致や新幹線、高速道路などの社会インフラが整備できればおのずと達成できると考えていたことは、昔話になっています。

地域の特性を活かし、個性あるまちづくり、地産地消、地域の自然環境や地場産業を再生発展させながら、住民の生活の質の向上に努めていかなければなりません。

◇市民と行政が一体となった取り組みを更に前へ…

水俣市は、幸いにも環境問題への市民と行政が一体となったごみのリサイクルやエコタウン、久木野や頭石など過疎地域再生のモデルとなる元気村づくりがあります。そのような取り組みと山や海、温泉など地域資源の活用方法を考え、外に向けてうまく情報発信し、受け入れ体制の整備を行っていくなら、大幅な雇用創出や人口増加は期待できないにしても、交流人口の増加は見込めると思います。

お互いが助け合い、支え合う地域づくり、もやい直しを推進し、環境モデル都市づくりをさらに進め、環境学習や水俣の暮らしを体験しに訪れる多くの人を受け入れることを考えています。

観光も温泉地として売り出すだけでなく、地域の人とのふれあいや学習、体験ができ、湯の児、湯の鶴温泉に泊まっていただく水俣ならではの観光を企画提案して行かなければならないと考えます。

◇水俣の再生のために…

これからのまちづくりは、自立した地域社会を住民が参画することで作っていかなければなりません。国、県の支援は必要ですが、自分たちが頑張ってまちづくりに取り組み、誇りを持って暮らすことで、その活動を見たり体験したりするために、多くの人が水俣を訪れるようになれば、経済的な効果も生まれ、雇用も創出できると思います。

人のせいにしない、自分で頑張り暮らしを守っていける市民が育ち、行政も市民とともに取り組んでいけるまちづくりができるなら、水俣の再生が可能となり、水俣に住んでみたい住み続けたいというまちにできるのではないか、そんなまちをつくってみたいという夢を持っています。



救済対象地域外での被害が明らかに

水俣病闘争支援熊本県連絡会議

幹事 田中 直光（熊本県医労連執行委員長）

8月28～29日の2日間にわたり「ミナマタ現地調査」が行われ、新潟や東京など全国から、650人のみなさんの参加がありました。

今年は、指定地域の問題と現在の原告をよく知ってもらうということを目玉企画として、初めて倉岳町（天草市）での開催となりました。

◇救済対象地域から外れた天草市で開催…

現地調査初日、まだ原告になって日が浅い倉岳の人たちが準備に追われていました。倉岳の原告は、一番早い人でも昨年の「水俣病大検診」以降に提訴をしたばかりでミナマタ現地調査といっても、これから何が始まるのか、どんな人たちが来るのか、全く分からないまま準備に奔走しました。

倉岳での企画は、弁護団担当で原告からインタビュー式に被害の聞き取りをして暮らしぶりや魚介類の摂取状況・被害の実態を明らかにする、医師団担当で模擬検診をして具体的な症状を明らかにする、原告の案内で倉岳山頂から被害の広がりや指定地域と非指定地域の行政の矛盾を見るというものでした。



模擬検診

◇今後も潜在患者の掘り起こし活動を…

2日目は津奈木文化会館で決起集會が開催され、原告を中心に450人余りが参加し、あらためて患者会として「水俣病特措法」にも取り組むという方針が確認されました。文化会館では、弁護団の基調報告のほか、新潟、東京、大阪のたたかひの報告や支援からの発言もありました。壇上に立った代表は、まず倉岳の絶景や線引きの不当性、「あの海に線は引けるのか？」と前日の感想を述べて自らの発言に入りました。倉岳会場の企画趣旨が伝わったと実感しました。



◇ご馳走と満天の星空…

暑いさなかに2日間通しての参加は大変だったろうと思いますが、交流会では恒例のバーベキューに地元原告からの差し入れがあり、海鮮とハモの珍味付きという豪華盤でした。通し参加者の多くは、その日のうちに舟で水俣へ移動しました。満天の星空を見ながらというご褒美は、私たちを心の底から癒してくれました。

◇対象地域外と年代の壁を打ち破ることが課題…

特措法は、受付を開始してから6カ月が過ぎようとしています。申請者数は、9月末で34,881人（熊本・鹿児島）になりました。単月でみると555人で受付を始めてから最小の申請者数でした。

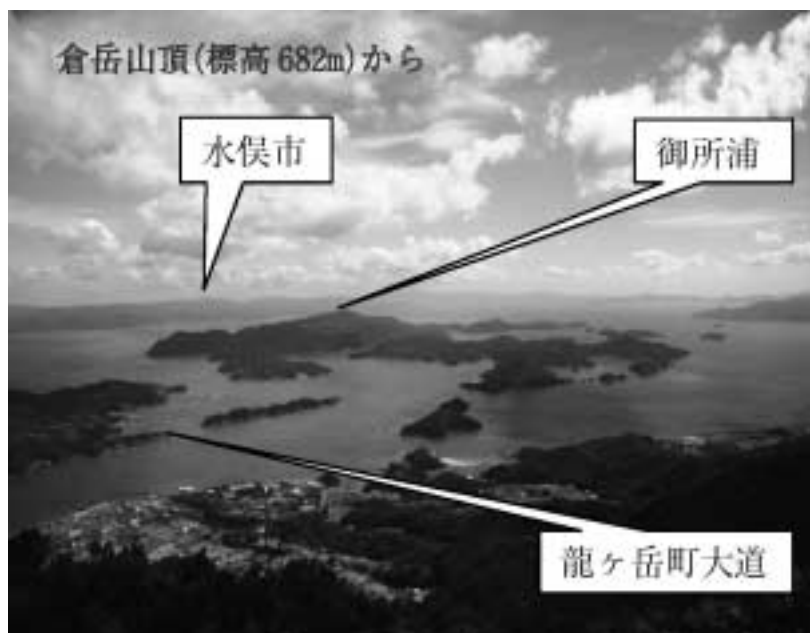
課題は、対象地域外と年代の壁をどう打ち破るかです。被害者は、いないのではなく隠されてきたし、壁に道を閉ざされたように感じて、まだ手を上げられずにいます。手をあげても国・県は、何をどのように文書で示せば救済されるか、いまだに明らかにしていません。

10月17日には、対象地域外である姫戸と宮野川内で特措法の説明会が開かれました。参加者からは、周りに水俣病の症状をもち、検診を希望する人がたくさんいるとの声上がり、今後もまだ「たたかいは続く」を実感させられました。

11月28日には、水俣病不知火患者会の主催（支援連共催）で線引き問題をテーマにしたシンポジウムが開催されます。ぜひ、ご参加ください。

*写真について

今回の現地調査の会場となった倉岳町棚底から対象地域である龍ヶ岳町大道まで直線距離でわずか2kmという至近距離です。トライアスロンにでも出るような水泳自慢なら泳いででも行ける距離です。まして魚は回遊しているのです。この海にどのようにして線を引けというのでしょうか？



救済指定地域問題を問う天草シンポジウム

この海に線を引くのか！！

☆と き 11月28日⑩13：30～

☆ところ 天草東保健福祉センター

(天草市栖本町馬場3682-1 TEL：0969-66-3355)

☆内 容

医師、弁護士、被害者をシンポジストに、それぞれの立場から水俣病被害者が置かれている現状を明らかにし行政が示す「被害者救済指定地域」の問題を考えます。

☆主 催 水俣病不知火患者会・水俣病闘争支援天草連絡会議・同熊本県連絡会議

問い合わせ：水俣病不知火患者会（0966-62-7502）

認知症ケア研修会で学んだ 「パーソン・センタード・ケア」をみんなのものに

4月23日から8月27日まで5回にわたって行われた認知症ケア研修会（水俣市地域包括支援センター、他共催）に参加しました。テーマは、最近、認知症ケアで注目されている「パーソン・センタード・ケア（その人を中心としたケア）」についてでした。認知症の基礎的な理解からリスクマネジメントまで幅広く学ぶことが出来ました。介護職である以上知っておかなければならない知識ばかりで、とても身になる研修でした。



今回、この研修を受講した6人が中心になって、法人の全事業所の職員を対象にした学習会が企画されました。受講していない人に理解してもらにはどうしたらいいか。事前に打ち合わせをし臨みました。認知症の基礎知識、加齢による物忘れと認知症高齢者の物忘れの違い、認知症の種類、中核症状とBPSD（周辺症状）など研修で学んだことを発表しました。そして、80才の認知症の女性の事例について5つのグループに分けて身体機能・感覚機能、生活歴、性格傾向、環境の側面から分析し快適なケアを探っていきました。BS法により詳細な意見が多く出されました。一つの事に対しても幾通りの考え方、対応が提案され新たな発見や気づきがありました。「パーソン・センタード・ケア」とは、その人らしさ、人格を尊重するということ。認知症の人を、個人として、人間として見ることです。そのためには、医学的、身体的症状だけを見るのではなく、性格や趣味、ライフスタイル、歴史などを知ることが必要になってきます。

発表は思っていたよりも難しく、途中、先に進まないところもありました。しかし、事前準備を行うことで研修で学んだ事が再確認でき、より深く学ぶことができたように思います。法人として初めての取り組みでしたが、今後も続けていって欲しいと思いました。

利用者や利用者のご家族は、新人、ベテラン関係なく私たちを介護のプロとして見られます。利用者の方と日々接するなかで、時には「どうして私の言ったことを理解してくれないの？」と思うことがあります。でも、求められているのは「自分自身が相手を理解する努力を重ねること」だということになりました。知識や介護技術の向上はもちろん、自分自身を磨き高め、私の倍以上の長い人生経験のある利用者の方を尊敬をもってケアしていきたいと考えています。家族にはなれませんが、家族のような存在、話し相手になれる介護士を目指して頑張っていきたいと思います。

今後の目標：ケアの中にバリデーション（共感し受け入れる介護技術）をとりいれていくこと。

のがわの家 田中 麻衣(介護士)

田形隆尚先生を迎えて

－現場で生きる記録の作り方－

介護労働安定センターのサービス事業を活用して研修会を行いました。講師は田形隆尚（社会福祉士事務所所長）先生。以前に同先生の講座を受講した職員が、是非とも全職員にも聞いて欲しいとの要望がだされ実現したものです。テーマは「現場で生きる記録の作り方」。プロとしての記録のあり方を解りやすく説得力をもって講義していただきました。



10月5日 NPOみなまた会議室

気持ちを尊重する介護

私は、キトさん家で利用者の方にあった介護の方法を学んできました。利用者の方は、自分のしたい事が一人では上手くできない事があるので、話しかけて何をしたいのかを聞きながら介護を行うことで、不満を持つことなく、施設で暮らしていけるということでした。

利用者の方の中には、施設から家へ帰ろうとする帰宅願望が強い方がいらっしゃいました。初めのうちは、洗濯物をたたむことや、料理を手伝ってもらうなどして、帰宅したいという考えを紛らわせることができていましたが、時間が経ち、おやつなどが配られたりすると、「お邪魔になるけん。」「迷惑をかけるわけにはいきません。」などと言って帰宅されようとしてしました。今度は洗濯物たたみなどで気を紛らわせようとしても、「他の人に頼んで」と言われ、帰宅しようとした時、その方にGPSのついた携帯を活用して外出していただく方法をとられました。GPSがあったとしても危険を伴うことだし、いったん外出されるとお迎えに行っても戻っていただけないこともあるので、できれば一人での外出は避けたいということでしたが、本人の気持ちを尊重することが大切であると教えていただきました。

利用者の方に満足していただける介護とはどのようなものか、私はキトさん家で学ぶことができました。

芦北高校 1年福祉科 貝田一輝



楽しい思い出をつくりたい

高校生になり、初めての実習でキトさん家にお世話になりました。何もかも初めてであったため、職員の方々には、たくさんの迷惑をおかけしてしまいました。しかし、一日一日いろいろな勉強をさせていただきました。健康チェック、食事介助、移動介助、レクリエーション活動など、たくさんのことを経験することができました。

一番印象に残っているのは、食事介助です。食べてもらえない、でも完食していただきたい。いつも焦った気持ちで介助をしていました。しかし、毎日実践していくと、5日目にはスムーズに食べていただくことができるようになっていました。職員の方に「良くてよかったね。」と言ってもらい、やっと自信が持てるようになりました。自分なりに成長できたのかなと思います。

レクリエーション活動では、毎日違うことを行い、楽しく実践することができました。利用者の方々と一緒に笑い、遊び、会話をし、毎日がとても楽しかったです。失敗もたくさんありましたが、職員の方に教えていただき、少しずつできることが増えていきました。

実習では、学校では学ぶことのできないことがたくさんありました。私が考えていた以上に介護職は力を使う仕事であることや、利用者の方に満足していただくための介護の難しさを知りました。私はまだ福祉科の1年生で、知らないことがたくさんありますので、これからも一生懸命、学校の勉強も介護実習も頑張りたいと思います。キトさん家では1年生のうちにあと1回、実習があります。今まで学んだことを実践し、楽しい思い出をつくりたいと思います。よろしくお願いします。

芦北高校 1年福祉科 竹畑美樹



☆ ☆ 地域のみなさんと楽しく過ごしました ☆ ☆

9月19日、毎年恒例になっている出水市名護地区の「敬老祝賀会」に入居者の皆さんと参加しました。祝賀会は、名護港で開かれ地域の方をはじめ、様々な団体から歌や踊りの余興がありました。私たち三郎の家からも4人のスタッフによる素敵（！？）な歌とダンスを披露しました。入居者の皆さんも笑顔で手を振ったり拍手をしたり楽しく参加されていました。午後には、敬老の日のお祝いの「表彰状」が入居者のお一人おひとりに渡されました。いつも口数の少ない方が、しっかりとした口調でお礼の言葉を言われた時には、私たちスタッフ全員、



これからも入居者の皆さんが楽しく元気に過ごせるよう、スタッフ全員で健康管理に努め健やかで楽しみのある暮らしを支えていきたいと思っています。そして、是非、来年も皆さん全員で「敬老祝賀会」に参加したいですね。

三郎の家 榎丸 昇(介護士)

-日本財団助成事業-

明るく安全な玄関に変身しました



グループホーム三郎の家は2002年に建設されて10年。ご近所の皆さんとの交流も深まり、地域に根ざしたホームの活動が進められています。

ところで、三郎の家は「普通の家」をモデルに造っているため、玄関間口が狭く出入りがとても不便でした。今回、日本財団の助成事業（100万円）を活用させていただき、玄関部分のリフォームが実現しました。

3枚扉に替えたことで開口部が大幅に広がり、車椅子でも出入りがスムーズになりました。また、アプローチのタイル貼り替えと玄関家根の葺き替もできて、明るく安全な玄関に変身しました。ありがとうございました。

三郎の家管理者 林 朱美

活動日誌（2010年8月～10月）

- 8月6日 介護部会（毎月第一木曜定例）
7日 水保・芦北GH連絡協議会講演会、交流会
20日 2010年度第2回理事会
21日 キトさん家、納涼なつまつり
24日 NPOみなまた職員研修「救急救命」
25日 三郎の家、地域サポーター隊による消防設備見学
27日 認知症ケア研修会第5回目
9月7日 芦北高校生教育実習受け入れ（キトさん家）
11日 認知症リハビリテーション
実践事例報告会（もやい館）
24日 NPOみなまた現任研修「認知症ケア研修」
27日 キトさん家、運営推進会議
30日 三郎の家、地域敬老祝賀会参加
10月4日 芦北高校教育実習受け入れ（キトさん家）
5日 NPOみなまた研修「介護記録作成講座」
9日 のがわの家、防火管理者講習会（～10日）
22日 2010年度第3回理事会
26日 NPOみなまた職員集会
29日 水保市介護保険事業所連絡協議会研修会

編集後記

奄美市の豪雨災害では甚大な被害が出ました。住用町のグループホームではスタッフの必死な救出活動も叶わず2人の入居者の方が犠牲になりました。増大する昨今の自然災害。人ごとでは済まされません。

NPOみなまでも募金活動を始めました。